

平成29年度 アクティブ・ラーニング美術教育推進事業

- 目的
- ・郷土の作家や大分に縁のある美術作品を鑑賞することで、郷土の文化の豊かさ、本物のよさを感じ取り、美術作品に対する多様な見方、コミュニケーション能力や表現力、豊かな感性を育成する。
 - ・児童が主体的・対話的に取り組む、鑑賞と表現を関連付けた授業の充実を目指し、そのモデル事業として3年間実施する。

I 県立美術館での鑑賞活動の様子

29年度は4年生を中心に、県内17市町の34校50学級、1060名の児童を県立美術館に招待。児童による主体的・対話的で深い学びの鑑賞活動を実施しました。

美術館では、それぞれが自分なりの見方で、思い思いの感想を自由に話し合いました。また、「作品のどのような表現からそう感じるのか」についても考える場をもたせ、鑑賞の後は全体で振り返りをしました。美術館での活動の様子を紹介します。



Step1

美術館に着いたら、サポートスタッフの方との対面。レクチャーで鑑賞の三つのめあてと美術館でのマナーを確認します。

【三つのめあて】

- ① 色々な見方をすること
- ② 作品から色々なことを感じることに
- ③ 感じたことを班で話すこと



「この4人は家族かな?」「後ろの人は家来かも。」「どこに行くんだらう?」「顔の表情が分からないからちょっと怖いな。」「同じポーズをしてみたら気持ち分かるかも。」

Step2

展示室では6人程度の班で、スタッフの方と共に鑑賞。

両手でわくを作ったり、のぞいたり、手で作品の一部を隠したり、立ったり座ったり近づいたり離れたりして見ました。また、感じたことを班で自由に話し、感じ方の違いを楽しみました。

色々なことに気づき、一人一人違った見方をしました。



Ⅱ 美術館での鑑賞後の授業実践の報告

小学校新学習指導要領 図画工作科の「指導計画の作成と内容の取扱い」では、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにすること」と示されています。また、内容の取扱いについては、「美術館等を利用したり、連携を図ったりすること」が示されています。

図画工作科で育成すべき資質・能力の向上のために、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）」が求められます。美術館で体験した「色々な見方をする」こと「自分なりの見方や感じ方を持つ」こと、「感じたことを友だちと交流し、感じ方の違いを楽しむ」ことを図画工作の授業でも取り入れ、表現力を高める指導の工夫が求められます。

今年度の参加校は、美術館での鑑賞の活動を受けて、学校で図画工作科の授業実践に取り組み、児童の変容を目指しました。参加した学校の実践の一部を紹介します。

- ①美術館での主体的な鑑賞活動を受けた授業実践によって、児童が鑑賞したり表現したりすることの楽しさを感じることができているか。
 - ②一人一人が自分なりの見方や感じ方をする事ができ、お互いを認めることができるようになっているか。
 - ③表現と鑑賞を関連付けた題材計画によって、児童の主体的・対話的で深い学びが実現できているか。
- 以上三つの視点で、それぞれの実践と児童の学びの姿をまとめてみました。

実践例1 絵画カード等を使った鑑賞活動

由布市立石城小学校

1 題材 「みつけたよ、ためしたよ」 4時間

2 目標

絵画カードを活用した鑑賞をすることで、友だちとの感じ方の違いや絵の味わい方を交流し、自分の造形的な活動に表すことへの意欲を高める。

3 実践の流れ

(1)美術館訪問に向けて～絵画に題名を付けよう(1時間)

・美術館での鑑賞体験の前に、絵画カードを使って、その絵のおもしろさや絵から受けた印象から絵画に題名をつけ、作品を味わう楽しさを感じさせた。

(2)大分県立美術館にて鑑賞の学習(2時間)

・美術館では、体を使って作品に親しんだり、絵画から感じることをガイドさんと交流したりした。

(3)絵を味わい、ぴったりくる題名をつけよう(1時間)

・学級に戻り、第1次で扱った絵画に、グループ活動で交流しながら、よりぴったりくる題名を考えるという活動を行った。体で表したり、なぜそうなるのかという理由を交流したりする中で、「それもいいね」「作者の気分に合ってる感じ」など、作者の意図を踏まえようとする児童の姿が見られた。

・その後、絵画カードを使って、神経すいじやくゲームを行った。めぐり当てたカードに題名を付け、友だちに納得してもらえたら、カードをゲットできるという特別ルールを設けて行ったが、どの児童も引き当てたカードに、即座に題名を付け、その活動を楽しむことができた。



班で決めた題名を
全体で交流



体を使って伝える

ポイント 作品から受けたイメージや作品自体のおもしろさから題名を考え、班で話し合っていて決めています。「なぜその題名にしたのか」の理由を、言葉や体を使って表現するなど、みんなに分かってもらうための手立てを、美術館で体験したことを生かして色々工夫させているところがよいです。様々な鑑賞の手立てを体験させて、児童の思考力、判断力表現力を高める取組をしています。

実践例2 「アートカード等を使った鑑賞活動」 玖珠町立森中央小学校

- 1、題材 「心と体で感じよう」 5時間
- 2、目標 作品を見て感じたことを、言葉や身体で表し友達と交流することで、作品の見方を広げる。
- 3、実践の流れ
 - (1)事前学習～美術館訪問にむけての意識作り
 - (2)大分県立美術館にて鑑賞の学習
 - (3)心と体で感じよう
 - (4)友だちの作品も心と体で感じよう



アートカードA

A まず、アートカードAを見て「どのような動物でしょう」と投げかけ、想像させた。「犬」や「しっぽがあるからねずみだと思えます」などたくさんの意見が出された。実際は「ライオン」であることを伝え、びっくりしていた。「どう見えるかは自由」であることを確認し、大分県立美術館の鑑賞学習を再確認した。

B アートカードBに会話を書かせ、ペアで同じポーズをとってせりふを言わせる活動をした。ふだんあまり発表しない児童も、恥ずかしそうにしながらも笑顔で活動できていた。

アートカードB

最近頭が痛くてね!

今日はぼーっとしてすごそう

最近会ってなかったね～

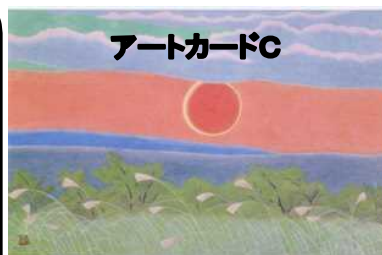
ずっとこの体勢なのも疲れるね～

うんわかった。ぼくもぼーっとするよ



C アートカードCを見て、①この絵は一日のいつごろか②どのような音が聞こえてくるか③作品に題を付けようの3項目について理由も含め書かせ、班で交流し合った。同じ絵でも朝日に見えたり夕日に見えたり、空に見えたり海に見えたりと友だち同士で意見が違ふことに驚いたり感心したりしながら、交流し合っていた。

アートカードC



真剣な顔で作品を見て感じたことを書く児童の様子。この後の班交流は楽しそうでした。



【活動を通して】

あっという間の一時間で、児童は皆本当に楽しそうに活動していた。授業のまとめでは、「私も絵の中に入ってみたい」「こんな絵をかいてみたい」「もっともっとたくさんの作品を見たい」「とても楽しかった。またやりたい」といった感想が多く、児童は作品を鑑賞する楽しさを感じていた。

ポイント 作品と同じポーズを取ったり、作品の中に入り込んだ気持ちになって会話をするこも、作品を味わう有効な方法です。色々な感じ方ができそうな3つの作品を選んだ先生の選択がよいです。感想の中に「自分の表現に対する意欲が高まった」という児童の言葉がありますが、この意欲の高まりを、次の学習につなげるような、鑑賞と表現を関連付けた題材計画の作成が重要です。

1 題材 「まねまね・入りこみ鑑賞会」をしよう

2 目標

美術作品をまねたり自分を作品の一部に入りこませたりすることで、作品の色や形など表現の面白さに気付き、作品の良さを味わうようにする。

3 グループで[まねまね]か[入りこみ]かを決め、せりふやポーズを考える。班で1つ作品を選び、鑑賞活動を行う。

<作品>

・「富嶽三十六景」葛飾北斎 ・「ママン」ルイズ ブルジョア

・「罪」土田麦僊 ・「円盤投げ」ミュロン ・「叫び」エドヴァルド ムンク

・「金剛力士像」運慶他 ・「考える人」オーギュスト・ロダン

☆いずれの作品も、ポーズを真似たり入りこんだりすることにより、作品のよさを感じやすいものを選んだ。

☆[まねまね]か[入りこみ]かを考える際、吹き出しにせりふを入れて考えることを手立てにすることで、作品の特徴をつかみやすくなった。



○出来上がった作品を発表し合い、鑑賞し合う。

☆せりふを言いながら発表し合うことは大変有効で、楽しく活動していた。

☆「あ一分かる分かる!」「なるほど!」などと、児童の作品を見るたびに歓声が上がり、どの児童も楽しく鑑賞することができた。

☆美術作品の特徴に立ち返らせるようにし、作品のおもしろさを味わうようにした。

☆様々な感じ方の違いや共感できるところを味わっていた。



【活動を通して】

話し合いが深まれば深まるほど、絵のもつ全体的な印象へと目が向き、児童の想像力が豊かになっていったようです。想像したことを友だちに伝える楽しさや美術作品への関心も持つことができました。友だちが作った作品の鑑賞とは違い、何を言っても何を感じても良く、自由に表現できる鑑賞の学習の大切さを感じました。

ポイント 作品を見て感じたことを基にコラージュの技法を使った表現と結び付けています。作品の表現上の特徴を捉えさせた上で様々な活動を組むことで学習効果を高めています。表現の手立てを話し合うことで、多様な表現につながりますし、感じたことを楽しく表現し、それが友だちに分かってもらえたことによって、さらに意欲が高まります。

ICTの活用等によって、色々な表現の工夫ができそうです。作品を尊重する気持ちを持たせた上で、学習に活用することも大切です。

1 題材名 「ゆめのまちへようこそ
～図工室をわたしたちのまちに～」(10時間)

2 目標

県立美術館での鑑賞学習を通して、芸術作品を自分の感覚で主体的に味わう楽しさに気付かせ、友だちやスタッフの方と感じ方を対話しながら、作品をより深くより多面的にとらえる感性を養う。そして、創作意欲や創造性を高めようとする気持ちを持たせる。

3 実践の流れ

- (1) 事前学習～美術館訪問に向けての意識作り・・・1時間
- (2) 大分県立美術館にて鑑賞の学習・・・2時間
- (3) 鑑賞後の感想やこれからの活動の見通し・・・1時間
- (4) ゆめのまちへようこそ ～図工室をわたしたちのまちに～
 - ① 対話しながら、ダンボールアート(共同製作)・・・5時間
 - ② わたしたちのゆめのまちに、1、2年生を招待しよう・・・1時間



...1年生や2年生がさわって楽しめたり、見て喜んでもらえたりするようなものも作りました。特に低学年の女の子はかわいいものが好きかなと思いました...

...お化け屋敷みたいにしたいと思いました。外の光が入らないように屋根を作るのが難しかったです。どうやったら重い屋根を支えられるのか、みんなと工夫しました...

...屋根や窓を三角形にしたら違って見えていいのではないかと、みんなと考えました...中に入って窓から見る景色も、とても良かったです...



【活動を通して】

今回の学習は、すべての児童が自分から意欲的に創造性を発揮し取り組みました。最後まで熱中して、他のグループとは違った独自性を出そうと工夫していたことも特徴的でした。そのため、多面的な視点を持ち、活動していました。

ポイント 素材と楽しく触れ合いながら、話し合うことでアイデアがどんどん広がって、表現が変化しています。「屋根の重さに耐えるにはどうしたら良いか」という、作り始めてから明らかになった課題を友だちと一緒に工夫して克服したり、「1、2年生にも楽しんでもらえるように」と、見たり使ったりする相手のことを考えて話し合っ工夫をしたりしているなど、色々な力が付いたことが見える素晴らしい実践です。

「実際に中に入って見て、違った見方が発見できた」なども、考えただけでは分からなかった、実際に使ってみて気付いたことで、表現につながる気付きです。

1 題材名 「光が差し込む絵、光のファンタジー」 6時間

2 目標

- ・自分の考えるファンタジーの世界を、光が差し込む面白さを生かし、友だちからもらったアイデアを生かしながら、物語に合ったものに創り変えようという姿勢を持ちながら表現できる。
- ・それぞれの作品が表す物語や表現上の特徴をもとに相互鑑賞し、見て保護者のことを考えた展示の方法を工夫することができる。

3 実践の流れ

- (1)事前学習～美術館訪問に向けての意識作り
- (2)大分県立美術館での鑑賞
- (3)鑑賞の仕方を出し合う
- (4)作品を展示～保護者に見ていただく



ポイント 制作の課程において、友だち色々な意見を取り入れて、お互いの表現を高め合う場面を設定しています。

制作の課程で、班で友だちの作品を見ながらアドバイス。班の友だちの作品と並べたり、比べたりしてアドバイスをし合っていました。
 (写真上)後ろの男の子が「形の枠にぴったりカラーセロハンを貼ると、くっきりした色になる！」とアドバイス。
 (写真左)左手前の女の子が「このことだね」と確認。

はじめは完成した作品から順に展示。次に、一旦全員の作品を外し、同じ世界をイメージして作った作品ごとに整理して掲示した。

自分の作品をどこに掲示して良いか分からない友だちに、「山が入ってるから山の入った動物グループと、ロケットが入ってるから宇宙チームの間の右側がいいと思う」「赤い魚と赤い魚同士はもう仲間なので、青い魚と入れ替えたらいきなり仲間が増えていけるから、入れ替えたらいきなり」「青い魚が1匹だけ外を向いてしまうから、右を向いた青い魚と入れ替えるといい。」などのアドバイスをしていた。



ポイント [共通事項]に基づいた友だちの作品との共通点を見つけ、展示の仕方をみんなで工夫しています。

作品同士の表現上の関連性(色や形、表現していること、イメージなど)に気付かせ、全体の中の自分の作品」という見方を持たせているところが良いです。
 学び合うことで表現が豊かになっています。

Ⅲ アクティブ・ラーニング美術教育推進事業 県立美術館での鑑賞活動を活用した学習の流れ

○ 美術館での鑑賞講座

(引率教員のための鑑賞講座)

鑑賞のポイントを美術館の下見も兼ねて体験。

※先生は児童になったつもりで鑑賞。(2時間程度)

1 学校での事前学習

「ミュージアムツアーのしおり」を使って、児童美術館での過ごし方とめあてを確認し、意欲付けをする。

- ①色々な見方をする
- ②感じる
- ③感じたことを話す

2 美術館での鑑賞体験

① 出会いの会

美術館に着いたら、研修室でサポートスタッフ(ガイド)の方との対面。レクチャーで鑑賞のめあてと、美術館での約束・注意事項を確認する。

② 鑑賞

6人程度の班で、ガイドの方と共に鑑賞。展示室の美術作品だけでなく、美術館の建物や施設の面白さも体験。(2時間程度)

ガイドは作品の解説よりも、児童一人一人の感じ方の違いを引き出し、交流させることに重点をおいて引率をする。児童は作品に近づいたり離れたり、下から見たり横から見たりするなど、色々な見方を体験することで、見え方の変化を楽しむ。感じたことを友だちやガイドと自由に交流しながら鑑賞をする。

③ 振り返りの会

鑑賞後、印象に残ったこと等をアンケート用紙に記入。

印象に残った作品や好きな作品については「どうしてその作品なのか、作品のどのところが印象に残ったのか」という視点を大切に振り返らせる。

その場で進行、発表をしてくれる児童を募り、児童主体で三つのめあての振り返りをする。

※どの学校でも、進んで進行をしてくれる児童がいて、他の児童も積極的に発言し、楽しく振り返りができている。

3 鑑賞後の授業実践(例)

美術館での体験、児童の見方や感じ方の変化を捉え、その後の児童の主体的な学びを目指すように授業改善に生かす。

- 例) ・学校で美術作品の鑑賞をする。 ・表現と鑑賞を関連付けた授業をする。
- ・学校美術館として自分たちが作った作品展をする。
 - ・地域の芸術家を講師として招き、指導を受けたり作家の方と交流をしたりする。
 - ・学校内の美術作品や近くの美術館などを活用して鑑賞活動を行う。

**平成29年度アクティブ・ラーニング美術教育推進事業
ミュージアムツアー実施日・参加校等一覧**

	日	市町村 学校(参加児童数)	児童数(人)	学級(組)	バス(台)
6月	9日(金)	ガイド研修/引率教師研修			
	13日(火)	ガイド研修/引率教師研修			
	27(火)	別府市 鶴見小 (56)	56	2	2
	29(木)	津久見市 青江小 (36)	36	1	1
	30(金)	豊後高田市 香々地小(12) 真玉小(11) 三浦小 (5) 臼野小 (3) [合同]	31	4	1
		日田市 東溪(16) 大明(23) 玖珠町 森中央小(42)	39	2	2
7月	11(火)	竹田市 荻小(22) 菅生小 (3) 祖峰小 (7) [合同]	32	3	1
		由布市 東庄内小(14) 川西小(9) [合同]	23	3	1
	13(木)	臼杵市 市浜小 (70)	70	2	2
		日出町 豊岡小 (81)	81	3	2
	18(火)	九重町 東飯田小(19)	19	1	1
		佐伯市 佐伯小(58)	58	2	2
9月	26(火)	宇佐市 四日市北小(43)	43	2	1
10月	3(火)	日田市 朝日小(19)	19	1	1
		竹田市 南部小(33)	33	1	1
		別府市 東山小(11)	11	2	1
	17(火)	中津市 豊田小(56)	57	2	2
		由布市 石城小(8)	8	1	1
	19(木)	宇佐市 四日市南小(45)	45	2	1
		杵築市 山香小(38)	38	1	1
	24(火)	大分市 判田小(68)	68	2	2
26(木)	大分市 判田小(67)	67	2	2	
11月	7(火)	大分市 田尻小(76)	76	2	2
	16(木)	豊後大野市 三重東小(62)	62	2	2
12月	14(木)	中津市 城井小(7) 津民小(1) 下郷小(7) [合同]	15	3	1
		大分市 野津原東部小(21)	21	1	1
1月	16(火)	国東市 熊毛小(10)	10	1	1
	16日間	17市町 34校	1060	50	36